

相模

第507号

平成29年1月1日

方除
寒川神社

相模國一之宮

はじまりは
ここから

初詣

平成二十九
丁酉歳



真澄 実

SAGAMI

17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 6 4 2

- 17 病院だより
- 16 青少年だより・神社の素朴なぎもん
- 15 寒川俳壇・相模詠草・人事
- 14 金華山黄金山神社 例祭参列
- 13 鈴の音通信
- 12 真珠湾 記念式典出席
- 11 クローズアップ
- 10 八方除解説
- 9 NY見聞録 | お正月特別編 |
- 8 第49回菊花展・写真展入賞者芳名
- 6 平成28年篤志奉納者芳名
- 4 新嘗祭奉納者芳名
- 2 平成29年 年頭のご挨拶

特集 年年祭歳

祈年祭・田打舞神事

社頭動静

迎春神話ねぶた紹介

新嘗祭奉納者芳名

平成28年篤志奉納者芳名
第49回菊花展・写真展入賞者芳名

NY見聞録 | お正月特別編 |

八方除解説

クローズアップ

真珠湾 記念式典出席

鈴の音通信

金華山黄金山神社 例祭参列

寒川俳壇・相模詠草・人事

青少年だより・神社の素朴なぎもん

病院だより



【神苑に春の訪れを告げる白梅】
※例年3月上旬が見頃です。

かん たけ やま しん えん
神嶽山神苑

3月1日(水)より開苑予定

春の息吹を感じる神苑で大神さまとのお神縁を深めましょう

神苑内では

茶屋「和楽亭」にて抹茶と和菓子をお楽しみ頂けます。(500円より思召し)
石舞台にて神楽舞と雅楽の奉奏を開催いたします。期日は決まり次第神社ホームページへ掲示します。

※入苑券を持参の上ご来苑ください。

節分祭のご案内

立春の前日である2月3日(金)、邪気災厄を祓い開運招福を願う「節分祭」が斎行され、古式に則り、追儺神事が執り行われた後、特設櫓上より豆撒きを行います。

この神事に奉仕される年男・年女の皆様を下記により募集致します。

(要項)

- 日 時 2月3日(金)
午前11時 (町内在住の方)
午後2時 (町外在住の方)
- 初穂料 金1万円
- 申込 神社窓口へ直接お申込みください
- 〆切 1月25日(水)



高座氏子総代会主催

第41回伊勢参宮旅行のご案内

毎年多くの氏子崇敬者のご参加を頂き実施しております伊勢参宮旅行は本年で41回目を迎えます。

清き川の流れと、緑深き静寂の森。「日本人の心のふるさと」伊勢神宮で、その荘厳な空気を五感で体験してみませんか?

本年は、伊勢神宮の御祭神・天照大神の親神様をお祀りする多賀大社(滋賀県)と学問の神様・北野天満宮(京都市)をお参ります。

皆様お誘い合わせの上、ご参加ください。



(要項)

- 日 時 3月5日(日)~3月7日(火)
- 募集定員 120名
- 参加費 47,000円
(交通費・宿泊費・食事代・神宮神楽料含む)
※宿泊の同部屋希望は追加料金あり
- 〆切 1月30日(月) ※定員に達し次第〆切

お申込み・お問合せ 寒川神社総務課 ☎0467(75)0004(代)

祭典と行事のご案内

<p>2月</p> <p>11日 10時 紀元祭並顕彰奉告祭 顕彰式</p> <p>3日 11時・14時 節分祭</p> <p>8日 10時 武佐弓祭</p> <p>3日 8時 元始祭</p> <p>2日 20時 追儺祭</p>	<p>1月</p> <p>1日 0時 八方除祭</p> <p>引続き 元旦祈禱祭</p> <p>歳旦祭 引続き 末社歳旦祭</p>	<p>3月</p> <p>20日 10時 伊集院直彦大人命 他命等慰霊祭</p> <p>17日 10時 祈年祭並田打舞神事</p>	<p>毎月</p> <p>1日・20日 8時30分 月次祭 (1月1日除く)</p> <p>14時 宮山役員改選奉告祭</p> <p>13時 末社御祖神社 春季霊祭並合祀祭</p>
--	---	---	--

田打舞神事 神楽歌

田打

めでたしや、めでたしや。参りたるついでに、国々のみそかち。かついてらしとことこ、かこすきの出雲の国、かこすきの出雲のあらくわを、千具万具、ちよふして春の日のながき、鎌がらさいてをめさる。めなが口の鎌をば、をさきさげてきつげ、をさきながの鎌をば、めさきさげてきつげ、きつげ比べて、調子やハツパ、ハツパ、ハツパ合わせて、千人のお百姓、万人のけんぞくに、一寸づつたまわる。桜田をのぼりに、柳町をくだりに、難波の小池の水を引き、鎌入りの田もみんなめでたく候を、明のかたへさしむき、一鎌チョウと打って、さんぶとおこいて、鼻にキツおしあて、かこんでみれば、いつもたいせつの銭がみの香りと、金がみの香りがハツパほんかり、ハツパとめでたし。三鎌・四鎌うなへば、たいと宝とびしゃもんこぶくが、ただこの身内へ、つとよつとよと、つとらつとらと打ったり、重ね鎌と打ったり。

草敷・代ならし

春の鎌そいが、打つからものよし、打ったる田はくれくれ、掻いたる田はみちみち、みちみちが上には、なに草なし。あの山に候を、この山に候を、しろがねでうらにばとこ、こがね草が菜の花、いっさい草よし草、あしゆらなるらと、苗代の四つのすみに、たかだかと下ろいて、下ろし置いた所へ、草敷きの上手が、あれやほにこれやほ、きぶちにきとろく、むなご太郎めが、一のせんに参りて、こむらごのたすきを、かいから括ってうん出し、かい結んでうんだし、だいだいとうんだいた。朝日の方へさし向き、めんどり羽もしっとり、おんどり羽もしっとり、しっとりしとりと、しいて取る所を、一丈や五尺の、ならしの竿をとり、所までうに、世の中を平らに、まっ平らに直して。

種蒔

食山のこしよりも、福の水サツとかけ、ユラリサクリと福種蒔くな。まいてやその後、おん内へ参りて、蒔くべき種あり、をいでる宝に、弓持ち槍持ち兜持ち、まこうな。納戸へ参りて、蒔くべき種あり、十二のそでぎぬ、重ねぎぬ、まこうな。お庭へ参りて、蒔くべき種あり、めかまとをかまへ、さんぜんめりたて、こぶたち、まこうな。みやまへ参りて、蒔くべき種あり。千びき万びき、かいたてならべたる、こまのものはやわぎに、早々とまこうな。女と申すは、正月が参れば、殿ごに甘えて、銭をも乞い取り、金をも乞い取り、数えたつてみれば、五鎌がかを油、三鎌が白もの、おん揉み合わせて、トロリ解け合およ、けはひしてその後、寄り合い友達、ころうをつこうよ、よくすめころうよ、鷹狩りするとも、尻ばしふりなよ、ひとの夫とるなよ。蒔いてやその後、みの口米をば、何石搗いたよ、千石搗いたよ。こがねのいかけへ、ザラザラ移して。一番に田の神に、二番に所神へ、三番に寒川大明神へ供する。くうしゃめおさめて、明のかたから、まこうな。子供等米かめ・かめ・かめ米をもかむべし、鳥をも追うべし。

祝詞

クラクツと蒔いたる種なれば、アザアザあざみの如し、ホキホキ箒の如し、ククウクツと、掃いて候。さて、そのうち、背の高いが金持ち、背の低いが銭持ち。二分が八匁、大分が八匁、はつこの数が、八十人、あいてうたい、ぴたりとなり、あきないとつためたさ。

苗ほめ

やあらやあら今日かい、よう今日かいな。今朝の苗の取りよさ、今朝の苗を取りあげて、なきのはにやとすへ、ひるすすきよしのはに、ちょうどやどりきたりな。チョチョラ、チョと、参って。一万五千ちょうの苗を、たった一時に取り上げ、後ろキツと見てあれば、ひるまのおおみずや、うるちひろめて十万石、粟ふえるというて三万石、こなたのごふだいじんのうち。

昼飯

おめしの上手は、ござらめしかあしからざくし、ゆらりとかつぎ、めがまをかまへ、つつ立ち上がり、エイヤ、エイヤと割ったるは、これ今日の米割りのところなり、さて菜汁にとりては、後ろの山の筍、前山の蕨は、さて又なますにとりては、大果報のあんじょう、おうわらさないし、はらぶもあう圓増のうむ、絵のまな板三十三枚、バラリと敷き、祝いの包丁皆で撫で、スイスワリ、スイスワリと、おろしされてござる。さて、その中に、さるお早乙女のおしやることには、身は七月半におなりなさる。葱なます食いたいとおしやる。作りしんせてござれば、更に八十サラ・サラサラと蒔いてござる。日に夕酒朝酒三十杯参るなり、我腹をば、穀作りのかめと思し召せ。タウリと打ち上げ、中のまを、トウドリ、こてらん、めでたさ。

田植

相模なる、寒川大明神の御前の姫小松。松もひりやうめく、殿もひりやうめくと、三度ちばうち、歌って田をば、ソンプリヒルリと、植え申したりな。相模なる、相模早乙女が。これ、さつとまいりて、歌おろいた、次第は、面白くもおんろいた、とどなかな、おれかちちか、チョンポッタなんぼばかり、チョンポッタ、だんごなかう、チョンポッタ、よ吉よ吉、だいじもない、孫をもけて抱こうな、ひこもうけて、抱こうなど、歌をばうちうたつて、田をばソンプリ、ユルリと、植え申したりな。

稲刈

相模なる、相模一の宮の、ふもとなる産子は。綾の錦なる、手こそしないたり、おやれおふ手は、しないたりな、いつもより、今年は、福太郎がててこそ嬉しげんなる、ふぜいして、天竺を照らしたもう、腰のほどにしわ寄せて、せじやうの、中のまろかつては、所神々にまいらす、二鎌かつては、田の神にまいらす、三鎌四鎌刈ったれば、二百三百はとつたの。

稲叢

二百三百はの、稲をもって、試し取りにしたれば、千石ばかりとつたの、万石ばかりとつたの、いふにひけば、食の山。酒に造れば、泉となる汲めども汲めども**尽きもせず。**万歳楽や**万歳楽や。**

青字…翁謡
黒字…地謡
赤字…翁謡・地謡



祈年祭

特集

田打舞神事

祈年祭と新嘗祭

毎年2月17日に斎行されている「祈年祭」は、春の耕作開始にあたり、一年間の五穀豊穡を祈るとともに、国家の安泰を祈る祭典であり、伊勢の神宮をはじめ全国の神社で大祭として執り行われています。豊作に感謝する秋の「新嘗祭」と対をなす祭典といわれ、明治の改暦前には旧暦2月4日に行われていましたが、改暦に伴い現在の2月17日斎行となりました。しかしながら、斎行日については全国で統一はされておらず、気温が低い地域では3月以降に斎行されている神社もあります。一方、宮中の賢所（せいしよ）においても祭典が行われ、天皇陛下が御親拝（ごしんぱい）（天皇陛下が御自ら拝礼されること）になられます。

祈年祭は「としごいのまつり」とも呼ばれ、「とし」稲の美称、「こい」祈りを指すとされ、米をはじめとする五穀の豊かな稔りを祈ることを意味しています。豊作を祈る祭典と豊作に感謝する祭典がともに「大祭」で奉仕されていることを鑑みると、稲作の周期こそが日本人の2年であるとも考えられます。

前号で解説した、秋の「新嘗祭」の斎行日は、現在では勤労感謝の日として国民の祝日になっていますが、昭和23年の設定以来固定日の祝日として最も長く親しまれている点からも、稲作が日本人にとって如何に重要なものであるかが窺えます。

日本人の原点

神社では、一年を通じ農業・稲作に関わる祭典が多い中、祈年祭はまさに農作業の始まりを告げる重要な祭典として位置づけられています。遠い昔から農業を基盤として生活してきた私たち日本人にとって「原点」ともいえる祭典なのです。

稲作は日本人の原点であり「和を尊ぶ」「相互扶助」「勤勉」「正直」など日本人の気質を表し、道徳心や規範意識にも関わる日本の文化そのものです。農耕が生活の全てともいえる時代にあつては、豊作を祈ることは国家安泰・万民息災を祈ることに外なりません。したがって、祈年祭は長らく国家規模で行われていた背景があり、現在にあつても宮中をはじめ全国の神社で厳粛に行われているのです。

予祝神事

また当神社においては、祭典の中で官司の祝詞奏上の後「田打舞」と称する、種蒔きから収穫までの一連の農作業を表現した素朴な神楽が特殊神事として奉納されています。

これは「種の「田遊び」であり、稲作のあらましを予め模範的に通り演じ、順調に稲が育つように祈願する「予祝神事」であると考えられます。このような予祝行

事は全国でも見受けられ、静岡県三島市の三嶋大社においては、白面の穂長と黒面の福太郎が稲作行事を狂言風に演じる「お田打ち神事」と呼ばれる同様の神事が行われています。

田打舞の変遷

寒川神社の「田打舞」は古くから田端村の旧社人によって奉仕されてきましたが、明治維新後にほとんど中絶し、その後末裔により祭典用の古面が当神社に奉納されています。

明治21年に再興されたものの、同27年に再び中絶、大正12年に再興されるに至りました。しかしながら、このときには既に旧来のものとは形態が変わっており、わずかに『寒川神社志』所載「寒川古式祭記」に神楽歌等が記載されているに過ぎませんでした。

そこで、古来より続く伝統ある神事の復興を願い、田遊び・田楽研究に実績のある国立文化財研究所をはじめ多くの有識者に協力頂き、2年半の歳月を経て、古式床しい姿が蘇りました。時に平成3年のことでした。

舞人は大正12年から社人「小菅家」が務めるようになり、現在は黒尉（くろゑう）が奉仕しています。白尉（はくゑう）は当神社の神職が奉仕しており、秋の豊作を祈り御神前で披露されています。

寒川さんの鈴の音

※鈴の音を「折り」の象徴ととらえ、当社社の折々の出来事をその音に乗せて皆様にお伝えするという意味を込めました。

神嘗奉祝祭

勢の神宮において斎行される年間二五〇〇にも及ぶ祭典の中で、最も重儀とされるのが「神嘗祭」です。その年に収穫された新穀を天照大神に捧げ、その恵みに感謝する祭典で、神宮では、この祭典に合わせて御装束・祭器具が一新されます。

20年に一度斎行される「式年遷宮」は大規模な神嘗祭であるとも考えられ、式年遷宮後最初の神嘗祭を特に「大神嘗祭」ともいいます。

10月17日には皇大神宮（内宮）において、天皇陛下が遣わされた勅使により奉幣が行われ、同日天皇陛下には皇居神嘉殿にて皇大神宮を御遙拝になります。

このような、日本人の生活の根源ともいえる重要な祭典が斎行される当日に、当社社でも神嘗奉祝祭を斎行し、神宮を遙拝致しました。

さざれ石奉納除幕式並清祓式

内の国旗掲揚塔の脇に「さざれ石」が奉納され、除幕式と清祓式が行われました。

横浜貨物総合株佐藤俊哉様よりご奉納頂きましたこの石は、岐阜県伊吹山で産出されたもので、学名を「石灰質角礫岩」といい、石灰岩が雨水により溶解され、その粘性の強い乳状液が小石を凝結しながら途方もない年月をかけて巨岩化した天然記念物です。



国歌「君が代」の歌詞にも登場する、日本国とその国民が共に栄えることを願った慶賀の石を、ご参拝の折に是非ご覧ください。

明治祭

文 化の日として広く国民に親しまれている11月3日は、近代日本の建国発展にご尽力なされた、今日の我が国の礎を築かれた明治天皇の御生誕の日です。

この日、明治天皇の聖徳大業を仰ぎ、皇室の弥栄と国家国民の繁栄を祈り、日本の文化・産業の更なる発展と永遠の平和を願う明治祭が厳粛に斎行されました。

神宮大麻暦頒布始奉告祭

神社庁相模湘南支部の神宮大麻暦頒布始奉告祭が管内神社宮司参列のもと11月11日に斎行されました。

県

神宮大麻は天照大神の神札のことをいい、新たな年も健やかに生活が営めるよう氏神様の神札と共に神棚にお祀りしてお礼です。

新しい神宮大麻をお受け頂き、清々しい新年をお迎えください。

教養研修会

毎年恒例となっております、県神社庁相模湘南支部主催の教養研修会が開催され、管内神職を中心に総勢53名が受講しました。

本年は、本社本庁より講師をお招きし「神社の危機管理」というテーマで、実務面でのお話を詳しく講演頂きました。

さまざまなことが目まぐるしく変化する現代において、本社といえども「危機管理」は重要な課題であり、非常に有意義な研修となりました。

新嘗祭

社で斎行される恒例祭典のうち最も重儀とされる「三天祭」の一つ、新嘗祭が役員・総代・氏子崇敬者多数参列のもと厳粛に斎行されました。この祭典は、春の祈年祭と対をなす秋の豊かな稔りに感謝申し上げる祭典といわれています。

神

昨年は8月の記録的な猛暑に加え、9月には長雨に伴う日照不足と、作物には非常に過酷な天候が続きました。しかし、そんな天候を物ともせず、田は黄金色に輝き、豊かな稔りの秋を迎える

祭典・行事のご報告

- 10月 1日 社務所新館改築工事竣功祭
- 2日 末社宮山神社神幸祭
- 3日 相模國式内社の会総会
- 15日 人形感謝祭
- 17日 神嘗奉祝祭
- 21日 馬場西側玉垣改修工事 第1期工事竣功清祓式
- さざれ石奉納除幕式並清祓式
- 11月 1日 職員防災訓練
- 3日 明治祭
- 10月 23日 第49回菊花・写真展
- 10月 11日 相模湘南支部教養研修会
- 11日 相模湘南支部 神宮大麻暦頒布始奉告祭
- 12月 13日 宮山神輿愛好会 奉納餅つき大会
- 23日 新嘗祭

12月

- 3日 宮山神輿愛好会 奉納米献上神宮参拝
- 14日 煤拂祭
- 20日 迎春神話ねぶた設置 社務所玄関前石張工事 竣功清祓式
- 23日 天長祭
- 31日 師走大祓式並除夜祭 神徳感謝祭

毎月1日・20日 月次祭（9月20日は除く）

ことができました。

祭典当日には、近隣の生産者より、丹精込めて作られた新米・野菜など様々なものが奉納（奉納者の御芳名は9ページに記載）され、神の御恵に感謝申し上げますと共に、皇室の御安泰と氏子崇敬者の更なる弥栄が祈念されました。

祭典終了後には、参集殿において記念式典が開催され、一年間の篤志奉納者と第49回菊花・写真展に入賞された方々（御芳名は10・11ページに記載）を表彰し、奉納された白酒にて直会が執り行われました。



[写真] ①職員防災訓練
②教養研修会
③七五三の一場面
④新嘗祭「豊稔の舞」
⑤早すぎる初雪

境内整備事業進む

社務所新館改築

平成27年より行われていた社務所新館改築工事が昨年10月に竣功しました。この建物には複数の部署の事務室等が設けられ一層の業務の効率化が図られます。

馬場西側玉垣改修

境内馬場西側にある玉垣の老朽化に伴う改修工事が進められ、昨年10月に第1期工事が竣功しました。今後は第2期工事が進められます。

社務所玄関前石張

より安全かつ清々しくご参拝頂くため、社務所玄関前の石張工事を行いました。



真珠湾 記念式典出席

— 世界の平和を祈念して —



あの真珠湾攻撃から75年。去る平成28年12月7日、アメリカ合衆国ハワイ州パールハーバーにてアメリカ合衆国海兵隊主催の平和を祈る記念式典が開催され、世界連邦日本宗教委員会ハワイ平和祈念使節団の一員として、会長である田中恆清神社本庁総長をはじめ日本各地のさまざまな宗教関係者約70名と共にこの式典に出席させて頂きました。今回で35回目を迎えた委員会のパールハーバー訪問は、昭和57年より毎年恒例の慰霊行事として実施されており、式典では田中総長が日本の宗教者を代表して登壇され「真の世界平和と、人類の幸福を実現するため…今この瞬間をどのように生きるべきかを考え続けることが大切でしょう」と挨拶されました。

G7伊勢志摩サミット後のオバマ大統領の広島訪問、安倍首相の真珠湾訪問など日米関係において歴史的な一歩を踏み出したといえる今、こうした式典や慰霊行事に参加できたことは非常に感慨深いものがありました。

米軍基地内に設けられた記念碑前での慰霊や現地の神社参拝など殊の外貴重な経験を通じて「今ある当たり前の平和」に感謝すると共に、一日も早い恒久平和の実現に邁進することの重要性を痛感する旅となりました。【宮司談】



【写真】 ①アリソナメモリアル ②式典で挨拶される田中総長 ③アリソナメモリアル内での式典 ④クリッパーズメモリアル ⑤愛媛丸慰霊碑 ⑥ハワイ金刀比羅神社・太宰府天満宮



寒川神社の 八方除

鬼門と裏鬼門

古来より日本では、鬼門（北東）は鬼が出入りする不吉な方向とされ、様々な災いが起こると忌み嫌われてきました。同様に、鬼門の正反対にあたる南西の方向（裏鬼門）についても、注意すべきものとして扱われてきました。四神相応の地として、地相的に最もふさわしいとされた京の都「平安京」では、政治的・宗教的に最適な場所にするため、徹底した鬼門・裏鬼門対策がなされたといわれており、如何に「方角」を重要視していたかが窺えます。

それでは、寒川神社はどうでしょうか。当神社は江戸（東京）から見て南西（坤）の地に鎮座しており、江戸（現在の皇居）の裏鬼門にあたります。また、通常社殿は南向き、もしくは東向きに建立されるのですが、当神社は南西を向いています。

方位学と八方除

人が行動する際、その行動には必ず「方向（方位）」が伴います。これに対して、目には見えない何か作用し、法則性があるのではないかと、それを研究したのが「方位学」です。この方位学の研究こそが八方除と大きく関わっているのです。人はそれぞれの生年月日により「星回り」が異なる上に、時々により良い方角（吉方）と悪い方角（凶方）が発生します。人によって全く異なる方角の良し悪しをその都度見極め、失敗の恐れのない方角を選択し、健康で幸せな人生を過ごす一助とすることが最も理想であります。しかし、慌ただしい現代においては、たとえ住居・方角・運勢の良し悪しを判断できたとしても、仕事や学校の都合が優先され、なかなか思い通りにいかないのが現実であり、支配されている法則に則って生活するのは不可能に近いといえます。

唯一無二の御神徳

そこで、**「転ばぬ先の杖」**として大難は小難に、小難は無難に過ぎせるよう、また悪い「気」をできる限り和らげ、良い「気」を呼び込み、日々穏やかに過ごせるように神様に祈るのが「八方除」です。

「八方除」は、地相・家相・方位・日柄などに起因する全ての悪事災難を取り除き、福德圓滿をもたらすとともに、如何なる状況にあっても積極的に生きていけるように導く寒川大明神の唯一無二の御神徳なのです。

○寒川神社の神札授与
の宮園中社寒川神社に於ては例年の通り
一月二日より古来有名なる八方除の神
札を授与せらるる由なるが右は附近の信
者のみならず遠く京濱間より多数の人
人參詣して多きは数十体を拜読し觀望の
己に配付して年内の凶事を去るを祈り
殊に厄年に當る者は自ら參詣して福徳を
祈り此神札を受くるを以て例とすれば明
年の當日も定めし願ふべしと

明治41年12月29日号「横浜貿易新聞」に当神社の「八方除」の記事が掲載され「古来有名なる八方除の神札を授与せらるる…多数の人参詣して…」との記述があり、100年以上前から当神社の八方除の信仰が根付いていたことが窺えます。
※横浜貿易新聞…現 神奈川新聞

《厄年一覧表》

性別	年齢 (かぞえ年)	前厄	本厄	後厄
男	25歳	平成6年生	平成5年生	平成4年生
	42歳	昭和52年生	昭和51年生	昭和50年生
	61歳	昭和33年生	昭和32年生	昭和31年生
女	19歳	平成12年生	平成11年生	平成10年生
	33歳	昭和61年生	昭和60年生	昭和59年生
	37歳	昭和57年生	昭和56年生	昭和55年生

※選暦や古希・喜寿なども厄年と考えられている場合もありますが、右記以外の年齢の方は当神社では「八方除」の御祈願をお受け頂いております。

《方位吉凶早見表》



平成29年丁酉歳

東日本大震災から6年

金華山黄金山神社 例祭参列

一歩ずつ歩む復興への道のり

未曾有の大災害となった東日本大震災から、まもなく6年を迎えます。当神社では、震源地に最も近い離島に鎮座する金華山黄金山神社（宮城県石巻市）への支援活動を震災発生当初より続けてまいりました。

この度、昨年9月25日に齋行された同社の例祭に当神社より利根宮司と職員が参列致しましたので、ご紹介いたします。

数日前まで台風の影響で不安定な天候が続いていましたが、当日は汗ばむほどの陽気に包まれました。本年の例大祭は震災後最多となる参列者をお迎えになったとのことで、境内は大いに賑わい、職員の方々も「この忙しさは嬉しい悲鳴、感無量だ」とお話しされていました。

数年ぶりの訪問となりましたが、震災で倒壊した鳥居・灯籠が修復されるなど復興の兆しがみえる一方で、未だ手つかずの部分も見受けられ、震災の爪痕は至る所に残っていました。そんな中でも、着実な復興の歩みを肌で感じる事ができ感慨深いものがありました。



▲利根宮司と金華山黄金山神社・奥海宮司

神社は古来より、地域の中で、地域の方々に支えられて発展してきました。人々にとって神社は「心のよりどころ」であり、地域での生活の中心ともいえる存在でした。大震災による被害は大きな打撃であったに違いありませんが、今、金華山黄金山神社は地域の人々はもとより日本中の方から支えられながら復興に向けて一歩ずつ歩み続けています。そこに「神社と人とのあるべき姿」をみたような気がします。

なお、今回も寒川神社にご参拝の皆様からの義捐金を同社にお届けさせて頂きました。ご協力頂きました皆様に衷心より御礼申し上げます。

被災地へ「祈り」をこめて
とどけ「鈴の音」

金華山黄金山神社 奥海宮司 ご参拝

10月27日、金華山黄金山神社の奥海宮司様が当神社をご参拝されました。参拝後は神嶽山神苑をご散策され、和やかなひと時をお過ごし頂きました。



▲震災直後の灯籠①と修復された灯籠②

当神社では今後も出来得る限りの支援を行ってまいります。引き続き、皆様のご協力をお願い申し上げます。

寒川俳壇

新蕎麦や挽きたて打ちたてて茹であがる
躓きて敷石叱る懐手
子沢山昔は多く一葉忌
一葉忌不足の二円切手貼る
古書店の隣は質屋一葉忌
杭を打つ事で始まる冬囲い
小春日や次々伝染る大あくび
義理二ツ果たして急ぐ夕時雨
うそ寒や駅に手配の顔写真
冬うらら花いちもんめの声がする
凧や路地を転がるポリバケツ
吊鐘の下で木枯渦巻けり
重ね着の手間のかかりぬ廁かな
家古ふ言うことかぬ冬障子
母の便り幾度も読む夜長かな
落葉飛ぶ教室の声つつ抜けに
主人なき屋敷は柿の当たり年

飛石 権花
倉谷 節子
宮入 つる
石原美枝子
岩田美代子
根岸 君子
竹村真砂美
菅沼うめの
菅沼 徜徉
吉岡 徜徉
猿渡 弥生
伊藤 公一
芹澤 徳光
菅沼 保幸
松本美智子
金子 つぢ
四ツ車梢月
原野 楽天

相模詠草

野辺の小草の自ずから決めしこの里に雑草の生を歩みつづけぬ
稲穂たれ取り入れ時と稲刈機、袋まんばい笑顔で仕事
曼珠沙華彼岸を告げる赤い花まるくほほえみ仏の姿
悲しみを抱えながらの八十六歳迎えし今日もしつかりと地に立つ
あまりにも澄みたる富士に見惚れて無心となりぬ今朝のいつとき
店頭「平種なし」とう柿並び十月一日秋の始まる
音のなく静かに散る寂しさに雨の合間に秋を愛しむ
存へて生ある朝の静かなり亡夫の育てし庭芝を刈る
くつきりと上弦の月暗やみに照りかがやける黄金の色
残り糸寄せ集めつつベスト編む夜長独り居物思わせる
道の辺の露草葉かげに空蟬一つ生れし命の何処に鳴くや
老令をいとわず参加のサークルに日々生き生きを心に置きて
独楽・こま・コマと書いて決めむ今日一日日本読み独り楽しむことを

宇田川時子
土屋トミ子
山口 幸子
山根喜美代
亀山 文子
安藤 慧
川島恵美子
平澤まさえ
吉田 幸子
宮治友美枝
徳江 道子
岡元 芳子
杉本 照世

人事

採用
＜寒川病院＞
看護師 伊藤 茜
診療放射線技師 小掠 萌
寒川病院勤務を命ずる
平成二十八年十二月一日

＜さむかわ訪問看護ステーション＞
看護師 高橋 義治
さむかわ訪問看護
ステーション勤務を命ずる
平成二十八年十一月一日

退職
＜寒川神社＞
主事 関 良子
願いに依り職を免ずる
平成二十八年十一月三十日

＜寒川病院＞
看護師 古屋 郁子
規則に依り定年退職とする
森川 春華
願いに依り職を免ずる
平成二十八年十月三十一日

看護師 中嶋 甲子
規則に依り定年退職とする
平成二十八年十一月三十日
看導師 奥野 道子
願いに依り職を免ずる
平成二十八年十二月三十一日

＜神恵苑＞
介護福祉士 竹内 清忠
願いに依り職を免ずる 溝江 美雅
平成二十八年十二月三十一日

病院 だより

ノロウイルス腸炎

宗教法人 寒川神社 寒川病院 医局長 木勢佳史



寒くなり宴会も多い季節になってきました。
この時期になると流行するのがインフルエンザと腸炎です。インフルエンザには予防にワクチンがあり、最近では抗ウイルス薬もありますが、ウイルス性腸炎は特効薬もなく厄介です。
中でも最近流行しているのに、ノロウイルス腸炎があります。非常にわずかなウイルス量で12時間から72時間の潜伏期を経て、嘔吐、下痢、腹痛、発熱などの症状をきたします。胃が痛いし、嘔吐するので、最初は急性胃炎と勘違いすることもありますが、そのうち下痢を起します。下痢がひどく、嘔吐をするようになります。薬を飲んでもそれを嘔吐し、水分摂取を充分にはできないのに、嘔吐と下痢で身体中の水分がどんどん失われますので脱水になり、危険な状態になります。そうすると、もう家庭では治療できなくなりますが、病院に来ていただき点滴で水分を充分補うとともに、胃腸をあまり刺激しないように禁食にすることで腹痛も抑えられます。水分や食物を摂ると、腹痛とともに排便の回数を増やすかも知れませんが、水分を摂取できる間は、下痢で失われる水分量に負けないようにしたいものです。

ノロウイルスは牡蠣に含まれることが多いので生ガキを食すのを抑えるように以前薦められていたこともありましたが、同様の二枚貝であるアカガイやアサリ、ホタテ貝にも多く含まれることがわかってきました。生ガキを食べたら必ずノロウイルス腸炎になるという時期に生貝を食べるのは非常に勇気の要ることです。但しこれらの貝も煮たり焼いたりすることでウイルスを不活化でき、もつ頻度の高い感染経路として人から人への感染があります。ノロウイルス腸炎の人の吐物や下痢便には非常に高濃度のウイルスが含まれていて、家庭内感染、社内感染を起しやすいうちでも知られています。家庭内ではノロウイルスになった人の下着、風呂、食器などにも注意が必要です。感染者が出たら、他の人への感染源にならないように、学校へ行くのを止める、会社出勤を止める事が薦められます。また流行時には頻回によく手を洗う事が大切です。
ノロウイルスにはアルコールは効き目がありませんので、感染者が接触したと思われる部位を、市販の次亜塩素酸ナトリウムで拭き取るのが効果的です。また睡眠不足、過度の疲労、寒冷、偏った栄養状態はウイルスに対する抵抗力を弱くしますので、避けるようにしたいものです。

青少年だより



少年館 しめ縄飾り作り

新年の神さまをお迎えするための準備として、少年館の館生たちは、家に飾るしめ縄飾りを毎年自分たちで作っています。
平成28年最後の少年館の行事ともあり、とても賑やかで和やかな中、普段見せないような真剣な顔つきで親子で協力しながら作業に励んでいました。
神さまのもとで学び、日々感性を養う館生たち。神さまをお迎えするという、日本人としての心をまた一つ教わるとともに、新たな1年の家族の幸せを祈る行事となりました。
今年は酉年。館生にとって大きく羽ばたける1年になりますように。



動 静

- 10月 16日 BS寒川第2団神饌田稲刈り (CS・BS・VS・RS)
- 11月 6日 寒川ILC 県道・町道花壇植栽奉仕 (BS)
- 13日 さむかわかまちぐるみ美化運動 (BS・少年館)
- 27日 親子でフィッシング&クッキング (CS)
- // 文化祭 (少年館)
- 12月 2日~4日 台湾スカウト交流下見受け入れ
- 18日 月の輪スカウト歓迎ハイク (BS)
- 21日 終業式 (少年館)
- 25日 しめ縄飾り作り (少年館)

スカウト 募集中!

小学2年生以上の男女
問合せ…寒川神社少年館



季節の料理

ふぐ会席コース

長崎県、下関産の
ふぐを贅沢に使用

水菓子	揚げ物	小鯛仕立て	ふぐ会席コース
食事	お造り	前菜	お献立
季節のフルーツ	色彩ビーツ	か皮、ちり酢和	◎八〇〇〇円
	赤おろし、薬味	旬菜盛り	
	ぼんず	ふぐのうす造り	
	白菜、長葱、豆腐	ふぐのうす造り	
	桜耳、春菊、葛切り	ふぐのうす造り	
	かぼす	ふぐのうす造り	
	三つ葉、海苔、卵	ふぐのうす造り	

◎献立の内容が仕入れ等により代わる場合がございます。

完全予約制となります。

◎ご予約は2名様より承ります。
◎ご予約はご利用の2日前まで。

レストラン あおば

〈ご予約・お問い合わせ〉
電話 0467-73-0001

〈 ふぐ会席コース 〉

- ◎1名様 6,000円+税
- ◎1名様 8,000円+税
- ◎1名様 12,000円+税

初宮詣

古来より伝わる人生儀礼で神様の御守護により子供が無事誕生したことの御礼と今後の健やかな成長を祈願する儀式であり、出生児の初めての神社参拝のこと。

結婚式・披露宴・初宮詣・七五三詣・成人式・還暦式など各種お祝いのご会食
参拝会食・忘年会・新年会・歓送迎会
同窓会・創業記念など各種のご宴会

ご予約・お問合せは

寒川神社参集殿

〒253-0106 高座郡寒川町宮山3835-1
☎0467-75-5555 FAX0467-75-5556

http://www.sansyuden.jp

神社の素朴なぎもん!?

Q お守りをたくさん持っても神様はけんかしないの?

お守りは、神様のご利益を授かるために持つものです。お札もおなじ意味を持っていますが、お札は神棚に祀るものなので、毎日持ち歩くわけにはいきませんよね?そこで、身近に持つもらうものが「お守り」です。

今回の質問ですが、結論を先にいうと、たくさんお守りを持っているというだけで神様がけんかすることはありません。ただ、たくさん持つときには気を付けてほしいことがあります。

それは、常に「感謝」の気持ちを忘れないことです。お守りをたくさん持ったとしても一体一体に心から感謝していれば神様はけんかしません。それは人間でも同じです。お願い事ばかりで感謝がないと、嫌な気持ちになってしまいます。

お守りを持つときには、お願いする気持ちよりも、感謝する気持ちの方が大切なのです。

Q 御朱印って何?

神社やお寺に参拝した「証明」として、専用の帳面に神社名(寺院名)や参拝日などを書いてもらい、印を押ししたものを「御朱印」といいます。

もともとは、お経を書き写してお寺に納める「納経」の証として頂くものでした。今でも実際に納経しないと御朱印が頂けないお寺もあるとか…。

時代も変わって、現在では主に参拝の証・記念として授与されており、そのデザインもいろいろなものがあります。社寺によって個性があるので、いろいろな所を参拝して集めている方も多くなってきました。

でも、御朱印はあくまで「参拝の証」です。スタンプラリーのように集めることに意味があるのではありません。

きちんと本殿前でお参りしてから「御朱印」をもらう。そういう気持ちで集めた御朱印は、きっと最高の宝物になりますよ。



祝祭日には国旗を掲げましょう

【表紙写真説明】
大倉陽月氏が描く、新年初詣ポスター

【題字】神社本庁 総長 田中恆清

『木札』

月次祭に
ご参列された方などに
お頒けする木札です



弥生 「3月」

如月 「2月」

睦月 「1月」

**寒川神社付近は、道路が大変混雑します
公共交通機関をご利用下さい
規制区域内での自転車通行は、ご遠慮下さい**

次号『相模508号』は
4月1日(土)に発行します

第507号 平成29年1月1日
発行所：寒川神社社務所
〒253-0195 神奈川県高座郡寒川町宮山3916
電話：0467(75)0004(代)
編集責任者：野村 尚広
印刷所：株式会社 さんこうどう
<http://www.samukawajinja.jp>

編集
後記

「七五三」の交換はお済ですか？
「七五三の交換？」と不思議に思われる方も多くと思います。少し意地悪な質問でしたが、この「七五三」は「シチゴサン」と読むのではなく「シメ」と読みます。そう「しめ縄」のことです。

天の岩戸神話で、天照大神様が二度とお隠れにならないよう張られたのが「しめ縄」の始まりとされ、この時に張られた縄には右から7本・5本・3本の藁の束が下げられたといわれています。

神話の時代から連綿と続く、我が国の伝統。「七五三縄」と書くところよとお洒落じゃないですか？
(互)